

氏名	宮崎 崇文		
学位の種類	博士(学術)		
学位記番号	第 6288 号		
授与報告番号	甲第 3573 号		
学位授与年月日	平成 28 年 3 月 22 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当者		
学位論文名	表情の分析に基づく介護施設入居者の行為の評価 —認知症高齢者と重度知的障がい者を対象として— (Evaluation of behaviors based on analysis of facial expressions of elderly people with dementia and people with severe intellectual disabilities in care facilities)		
論文審査委員	主査 教授 三浦 研	副査 教授 岡田 明	
	副査 教授 森 一彦		

論文内容の要旨

本論文は近年の表情認識技術の急速な進歩を踏まえて、「喜び」の表情を SI (Smile index) として行動観察調査に導入し、認知症高齢者や重度知的障がい者を対象として、表情と行為の両面から介護施設の評価・分析に先駆的に取り組んだ研究であり、全 4 章で構成されている。

第 1 章では、過去の認知症高齢者と知的障がい者の介護施設を対象とした行動観察調査、表情に関する先行研究を概観し、本論文の位置付けを示した。

第 2 章では、2 つの認知症高齢者グループホームで実施した調査から、同種の行為においても表情が異なること、家事や会話を積極的に行う認知症高齢者の表情が高いこと、さらに、何もしていない入居者のなかにも、周囲の会話や家事によって表情の値が有意に高まることを示し、グループホームの特色とされる家庭的な行為が直接参加しない入居者にも表情面で有効であることを示した。その一方、一部の ADL レベルの低い入居者には、周囲の行為が表情にほとんど影響を及ぼさない実態から、ケアを含む環境の設定の再検討が必要な入居者の存在も指摘した。また、介護職員が認知症高齢者に介助する際の表情の数値が高いこと、また、職員の傍らで過ごす時の表情の数値が有意に高いことから、職員によるインフォーマルな関わりが認知症高齢者の表情に影響する実態を明らかにした。

第 3 章では、全国に先駆けて居室の個室化と生活単位の小規模化に取り組んだ重度知的障がい者介護施設を対象として、環境改善の前後の入居者の行為と表情の変化を介護職員の聞き取り調査と合わせて分析した。その結果、行為や表情の変化は介護職員の認識と一致し、ケアを含む環境改善後、無為の表情が有意に改善したこと、また、一部の重度知的障がい者にみられたいわゆる「こだわり」行為の回数と表情の数値の上昇など、行為と表情の質的变化から、家庭的な環境を目指した環境改善の有効性を示した。

終章では、前章までの分析・評価を基に、表情の視点から介護施設の環境のあり方について総括し、認知症高齢者グループホームには、調理などの活動的な行為に直接的に参加しない入居者も想定した共用空間の計画が求められること、その一方、周囲の行為に反応を示さない一部の ADL レベルの低い認知症高齢者については、ケアを含む環境を改めて再検討する必要があること、また、障がい者介護施設についても、小規模で家庭的な空間の設定が有効であり、介護施設を居住空間として計画する重要性を指摘した。

論文審査の結果の要旨

本研究は従来 of 行動観察調査の手法に表情という新たな指標を加えて、介護施設の入居者の行為と環境を分析・評価した先駆的かつ新規性のある研究であり、グループホームの特色とされる家庭的な行為が直接参加しない入居者にも表情面で有効であること、また、障がい者介護施設についても、小規模で家庭的な空間の設定の有効性など、学術上のみならず計画上も有用な知見を明らかにした。よって、審査委員会は本論文が博士(学術)の授与に値するものと認めた。